



第47期富士見市民大学開講式・基調講演

第1部 開講式

開催日：令和5年6月1日（土）

開催時間：午後13時00分～13時30分

会場：鶴瀬コミュニティセンターホール

NPO法人富士見市民大学の令和6年の第47期の開講式は、6月1日（土）午前13時より出井理事の司会で、鶴瀬コミュニティセンターホールを会場にて開催された。

最初にNPO法人富士見市民大学理事長瀬戸篤より入学者に対し祝辞がありました。

「富士見市民大学」は本年47期を迎えます。会員と市民の要求に耳を傾けながら、生涯学習という理念と抽象概念を具体化して、今年度は6講座と5本の公開講演会を企画しました。

生涯学習とは私たち一人一人が自由にそして自発的に「学ぶ意欲」をもって、自分で勉強することですが基本ですが、長いコロナ生活の中、ともすれば「ひとりよがり」になりがちです。

市民大学での学びは、受講者同士が知り合い、仲良くなる、さらに学びを深めることを目指しています。幅広く色んな事について学んでいただきたい。



続いて来賓の富士見市教育委員会山口武士教育長からも祝辞がありました。市民大学は「ふじみの歴史」のような身近な講座から「国際社会学」のような世界の政治や経済に渡る幅広い講座があり幅広く学ぶことが出来る。

また祝辞の最後に、3年間コロナ禍の中で、市民大学の活動が休むことなく続けられたことへの理事長をはじめ理事の努力への謝意の言葉を頂きました。



開講式の最後には、理事・担当職員の紹介がありました

第2部 基調講演

開催時間 13時30分～15時30分
演 題 「平安貴族と宮廷サロンのきらびやかな女性作家たち」
講 師 川村裕子氏
武蔵野大学日本文学研究所 客員研究員
参加人数 85名



第一部

最近では女流作家と言わないようになった。女流に対する男性に関する対語がない言葉は差別的な言葉として避けられるようになっているので、女性作家とした。

さて、平安時代での女房とは宮仕えにでた女性のことで紫式部と清少納言は女房である。紫式部は中宮彰子、清少納言は中宮定子に仕えた。

枕草子を読むとき、笑うということばに注意して欲しい。中宮定子はその後没落していくが、枕草子にはよく笑う定子しか描かれていない。泣きたいくらい現実には押し潰されそうな女主人すなわち、清少納言が尊敬する定子が輝くように笑う日々だけを清少納言は書き留めていた。枕草子は中宮定子を清少納言なりに救うために書いているように思う。

藤原道長は娘の彰子を一条天皇に中宮として入内させる。優秀な家庭教師として紫式部も女房として彰子に仕える。道長の思いとしては教養豊かな文化サロンの中宮のもとへ天皇をいざなうことで、寵愛を得ることができ、やがては皇子の誕生を期待してのことだった。

平安時代は、天皇は権力と文化の両方をたばねる頂点にある存在であった。

一条天皇を支える道長は、意外にもぼんやりしている男であったと思う。御堂関白日記には多くの女性たちに可愛がられ、押し上げられたような記録が残る。健康で長命な女性に囲まれ、支えられた運のよい男であった。



平安時代の王朝ドリームとは、女性にとっては后となること。男性にとっては后になる娘をもつことを栄達の極みとした。

今で言う県知事にあたる受領の妻が並みの女の栄達であるが、上達部の妻になり、その娘が后になるのが究極のドリームと枕草子にある。

一方、菅原高標女は更級日記で、后になることより、猫が傍らにいて源氏物語を読める方がいいとも記している。女もさまざまなのだ。

道長は一条天皇に献上するのに源氏物語だけでなく古今集、後撰集、拾遺抄などを複数、行成に書き写させた。一条天皇も当然ご覧になるであろう中宮彰子へのプレゼントには、清少納言の父、元輔集も含まれる。この元輔による注釈を現代も活字で読むことができる。

道長が献上した家集は、文化を統括する天皇にとって魅力的なものだったろうし、これだけたくさん家集があるのは一条天皇がコレクションしていたかもしれない。文化と権力は今と違って切っても切れない関係だった。

宮仕えの賛否両論

老い先なく、ただ真面目にうそくさい幸いを信じて家のなかだけで過ごすのはつまらない。宮仕えにでて世の中を見たりしたいものだ。内侍など天皇の秘書のような仕事につきたいものだと枕草子にある。

更級日記の作者高標女の父親は、宮仕えは嫌なことと思っではいるものの、人からよいこともあるので宮仕えを試せと聞いてしぶしぶ出したとあり、宮仕えは賛否両論であった。

五節の舞を紫式部たちが夜の灯火の下で舞ったときは、美しく見えるように競いあったことと思うが、同時に姿をあらわにすることへの抵抗感、自分を浅ましく思う自虐の言葉がある。



枕草子にも、宮仕えに対する批判的な意見が憎らしいと思う反面、もっともなこととも言っている。

女房という言葉は、部屋と言う意味で広い廊下のような渡殿を几帳で区切った空間である。

高さ三尺(0.9m)あるいは高さ四尺(1.2m)しかない几帳のなかは許可なく入れない、ごくプライベートなところとなる。

紫式部日記に、几帳のなかに道長がおみなえしの一枝を差し入れ、紫式部に筆をとらせる場面があるが、

これは紫式部のうれしはずかしの道長との関係を匂わす場面となっている。

後宮の女房たちは十二の役所、その他に女嬪(にようじゅ、雑用係)を含めると総勢百人を越える。

希望して宮仕えしているはずなのに面倒がったり、陰で悪口を言っているそばに本人が現れたり、メイクに時間をかけたり後宮ライフの様々な女房たちの人間模様が紹介された。

また、紫式部の処世術としてゆったりおだやか、ボケキャラをよそおうことや、女主人を持ち上げるような言葉を盛る伝達ができることがデキル女房、主人の覚えめでたくなるようなことなども紹介された。

ある女房が一晩中泣き腫らして化粧をくずしたのは彰子の出産の時の様子である。当時の出産は五人に一人は妊婦が命を落とすような大変なことであった。子どもを産むのは命がけということが改めてもっと周知されるべきと思う。

道長の妻の倫子の最後の子どもは44才の高齢出産で、倫子自身も長寿を全うしたと言う。当時は希なことである。

宮仕えの喜怒哀楽、楽しいなかにあっても努力では越えられない壁があった。父親の出自による身分である。生まれながらに上臈、中臈、下臈は決まっている。

上臈だけに許される禁色。

平安時代の貴族の女性は生まれながらの身分と家の中で待つ女だった。あとは仏に帰依する女になるかだったろう。数人のもの書く女を除いては。

紫式部も清少納言も、ものを書くということで身分や家にとらわれている壁を越えたのだ。

観察や想像の力をこめて、筆をとるとき「私はどこにいるのか」自問自答する心から生まれた文章や物語は時代を超えて、私たちの心に響いてくる。

休憩

第二部

1. スライド上映(40)と説明
2. 講演内容に関するもの
3. 王朝生活の基礎知識

質疑応答

- 1、几帳から差し入れられたおみなえしの場面についての詳しい状況。
- 2、女官と女房の違い

女官は公務員、女房は女主人との私的な主従関係。終了



アンケート集計結果

日 時：令和6年6月1日（土）午後1時30分～3時30分

会 場：鶴瀬コミュニティセンター ホール（鶴瀬公民館）

講 師：川村 裕子（かわむら ゆうこ）氏

演 題：平安貴族と宮廷サロンのきらびやかな女性作家たち

参加者 85名

申込者実参加者 59人（申込総数 77人 欠席 18人）
当日参加 12人
スタッフ 14人

回収率 72%

講演会受講者数 71人
アンケート回収 51人

1. 講演会について

項目		満足	普通	不満足	合計	満足度
1	内容について	30	5	0	35	85.71%
2	講師について	30	4	1	35	85.71%
3	スタッフの対応について	22	11	0	33	66.67%
合 計		82	20	1	103	95.50%
満足度		79.61%				

感想・ご意見 不満について

1. 講式の出席者が少ない
2. 記念講演の川村先生たいへんよかったです。
3. レーザーポイントを使ってもらいたかった。
4. 大変良かった。時間が短いと感じた。もう少し聞きたかった。
5. 高齢者の私にとって「言葉が読めない」所から解説が必要。
6. テレビで 興味を持って来ている人が多いと思う。もう少しゆっくり話してほしい。
7. プリントにページ番号があった方が良かった。スライドの方をみて話すとはよく聞こえなかった。
8. 照明は消さない方が良かった。（後部座席の人）
9. スタッフの対応が良い
10. 川村先生は聞きやすく、わかりやすかった

2. 来期以降の講座、講演会について、取り上げて欲しいテーマテーマや講師名などを記入下さい

1. 平安時代でなく近代の「島崎藤村の夜明け前」等
2. 日本の近代文学のお話
3. 江戸時代の商人について（宮瀧交二先生）
4. 生活に密着した幅広い領域を数多く開催出来れば色々な人が参加できる様になるかと思う。例えば健康、教育、政治、税金、貯蓄等
5. 枕草子、藤原道長

3. 本講演をどこでお知りになりましたか

順位	項目	人数	割合 (%)
2	市広報	22	42%
3	市民大学からのお知らせ	18	18%
1	掲示板ポスター	10	19%
4	お知り合いからのお誘い	3	6%
5	その他（鶴瀬公民館 他）	0	0%
6	市民大学HP	0	0%
合 計		53	100%

4. 回答者の属性について

4-1 性別

項目	男性	女性	他	合計
性別	25	30	0	55
割合 (%)	45%	55%	0%	100%

4-2 年齢

項目	50歳以下	51～60歳	61～70歳	71歳異常	合計
年齢 (人)	2	2	12	34	50
割合 (%)	4%	4%	24%	68%	100%

4-3 お住まいの地域

順位	地域名	人数	割合 (%)
1	鶴瀬・関沢地域	20	43%
2	ふじみ野地域	9	19%
3	みずほ台地域	5	11%
4	渡戸地域	5	11%
5	水谷地区	2	4%
6	諏訪地区	2	4%
7	山室地区	1	2%
8	三芳町地区	1	2%
9	南畑地域	1	2%
10	その他	1	2%
11	上沢地区	0	0%
12	羽沢地区	0	0%
13	鶴間地域	0	0%
合計		47	100%

5. 富士見市民大学全体に関する要望など御座いましたらご記入ください。

1. 今後も同様な楽しい企画をお願いします

6. 当大学の受付・資料の印刷などのお手伝い又は企画運営の活動(担当理事として)に興味をお持ちの方、ご協力いただける方は、お名前・ご連絡先(電話)をご記入ください。

